

平成 30 年 5 月 30 日
May 30, 2018

大学院学生各位
To All Graduate Students

平成 30 年度
基盤医学特論 開講通知
Information on Special Lecture Tokuron 2018.4-2019.3

題目：腫瘍増悪化における遺伝子発現制御機構の解明
Title : Elucidating regulation of gene expression for driving tumor malignancy

講師：二村 圭祐 先生（大阪大学 大学院医学系研究科 遺伝子治療学 准教授）
Teaching Staff : Keisuke Nimura, Ph.D.
(Associate Professor, Division of Gene Therapy Science, Osaka University Graduate School of Medicine)

日時：平成 30 年 6 月 26 日(火) 17 時 30 分より (90 分)
Time and Date : June 26 (Tue.), 2018 17 : 30 ~ (90 minutes)

場所：基礎研究棟 1 階 会議室 1
Room : Meeting Room 1, (Basic Medical Research Building, 1st floor)

言語：日本語
Language : Japanese

我々は先天性疾患や癌の病態の根底にある分子メカニズムを解明することにより、遺伝子発現制御の新たな機序を明らかにすることを目標とし研究を行っています。これまでの研究から、H3K36 メチル化酵素 WHSC1 (NSD2, MMSET) の欠損が発達遅延や心奇形を特徴とする先天性疾患 Wolf-Hirschhorn 症候群の原因であることを見出しました[Nimura et al. Nature, 2009、Lee et al. PLoS ONE, 2014]。また心発生に重要な転写因子 Nkx2-5 がエクソヌクレアーゼ Xrn2 と協調して、転写終結点を決定していることも見出しました[Nimura et al. eLife, 2016]。最近では、B 細胞活性化においてダイナミックなクロマチン構造変化が誘導され、MYC が重要な役割を担っていることを解明しました[Kieffer-Kwon*, Nimura* et al. Mol Cell, 2017 (*co-first)]。これらの成果を基に、現在、遺伝子発現制御の視点から癌の増悪化機序の解明に取り組んでいます。本セミナーでは、これらの成果を紹介します。

※関係専門分野・講座等の連絡担当者：腫瘍生物学 高木 奈美（内線 2463）
Contact : Nami Takagi, Division of Cancer Biology (Ext. 2463)

事前の申込みは不要です。No Registration required.
講義開始後 30 分迄に御入室下さい。Please take a seat before 18:00.
途中退室不可 Please stay until the end of the lecture.

医学部学務課大学院係
Student Affairs Division, Graduate School of Medicine